



北里大医学部の齊藤典充講師は「AGA予防に日常これをした方がいい」ということはなく、バランスよく生活することが大事」と言う

カー出荷量ベース)を保つアンファアの「スカルプD」シリーズ。「さあ立ち上がれ 髪の毛たちよ」というCMソングが盛んにテレビで流れている。

だが、担当者はこう語る。

「私たちは、このシャンプーを発売、育毛シャンプーとうたったことはいんです。あくまで頭皮の状態を正常に保つためのもの。髪の毛も畑と一緒に、土壌がちゃんとしていないと髪は育たないという発想」

薬事法上表示義務のある「有効成分」のうちピロクトンオラミンは皮膚の常在菌をコントロールするもので、グリチルリチン酸ジカリウムは一般にはフケを防止する作用。ほかにアミノ酸が髪に浸透するな

本一本を太く、頭皮

環境も整える、という説明だ。

頭皮にジェット噴射させる「サクセス薬用育毛トニック」などのサクセスシリーズを手がける花王は、「薄毛不安層」への訴求を戦略の中心に据える。

「将来的に薄毛になるかもという不安を持っている若年層に『予防育毛』という考え方を浸透させていきたい」(担当者)

サクセス薬用育毛トニックに11年から含まれるようになった「トーフラバノン」は「ガイドライン」ではC1評価。合わせて売り出している頭皮マッサージ器具についても、血流改善と育毛の関連性はまだ認められていない。もっとも花王は「今年中に有効性を示す論文を提出する」という。

やはりC1評価の「アデノシ

薄毛とEDの苦闘をめぐる年表

B.C. 5~4世紀 ヒポクラテス(古代ギリシャの医者)、薄毛について研究。

B.C.46 ユリウス・カエサル、内戦を終結させローマに凱旋。月桂冠を常時かぶれることになり「薄毛が隠れる」と喜んだとされる(編野七生『ローマ人の物語』から)。

17世紀 フランス・ブルボン朝のルイ13世、脱毛が進行したためかつらを着用し、廷臣らも着用するように。跡を継いだルイ14世もかつらを愛用。

1967 株式会社アートネイチャー設立。

1969 株式会社アデランス設立。男性用かつらの代表的メーカーに。

1973 日本初の薬用育毛剤「カロラン」(第一製薬)発売。

1982 養毛剤「薬用不老林」(資生堂)発売、大ヒットに。

1983 「薬用紫電改」(鐘紡)発売。専用ブラシとの組み合わせでヒット。

1998 アメリカでED治療薬「バイアグラ」(ファイザー)が発売され、翌年に日本でも承認。



1974年のアデランスのCM

育毛サービスマネージャー「薄毛不安」層のすくい取りに必死だ。アデランスでは、「よりエビデンスを重視したサービス」への転換を図り、06年に板見教授と協力して阪大に「皮膚・毛髪再生医学(アデランス)寄附講座」を開設した。10年には育毛サービスマネージャー名を毛髪再生という意味の「ヘアリプロ」

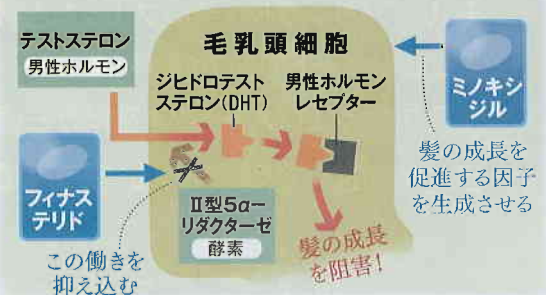
「サブリとプロベシアを併用することにより、9割近い人が発毛を実感しています」(岡嶋氏) 唯一の内服薬であるプロベシア

ダイエットで脱毛も

「アデノシンは髪の毛を太くする効果については有意差が確認されているが、医薬品にして効果を強調するだけでは商品が売れない。ハリやコシを与える成分などもアピールし、女性を取り込んでいきたい」(担当者)

一新し、板見教授らの研究成果である赤色LEDを利用した育毛サービスマネージャーを取り入れるようになった。ウイッグではなく「発毛・育毛」をサービスマネージャーの中心に掲げるバイオテック(本社・名古屋市)では2年前から、「名古屋Kクリニック」の岡嶋研二院長を技術顧問に据え、岡嶋氏が主唱する「IGF-1」理論を軸にしたサービスマネージャーを展開する。

男性型脱毛症の仕組みと薬の作用



アを上回る効果が出ている。驚くべき結果のはずだが、それを薬剤として販売すればいいのではないかという質問には、「費用面で困難。そういった提案を製薬会社にしたことはない」ある製薬会社関係者は「そんな結果があるなら学会で発表してほしいのですが」と語る。相変わらず百花繚乱状態の薄毛業界。消費者はまずどうすべきなのだろうか。慶応大学の大山学専任講師はこう語る。「薄毛の中にはAGAに見えても違うものもあり、素人では区別が難しい。過激なダイエットや内臓疾患で急に脱毛することもある。まずは専門医にかかり、自分の毛髪の状態を医学的に把握することが大切です」

(26~27ページに関連記事)